

イプシロンロケットとは

伝統を受け継ぎ、革新を続ける。

ここがすごいよ！イプシロンロケット

▶より精度の高い軌道投入ができる！

3 段上部に小型の液体推進系（PBS）を搭載することで、固体エンジンだけでは難しい精度の高い軌道投入を実現しました。

これによりイプシロンとして初めて太陽同期準回帰軌道に衛星を投入することができました。今後打上げ需要の拡大が見込まれる地球観測分野での活躍も期待されます。

▶より衛星に優しい分離ができる！

従来の火薬を使ったものから、新たにリンク機構を使った分離方式を採用することで、衛星が放出される際の衝撃を小さく抑えることができ、世界トップレベルの衛星搭載環境を実現しています。

イプシロンロケットはこれまで「特別」だった宇宙の敷居を下げ、誰もが積極的に宇宙を使える時代の実現を目指した固体ロケットです。

H-IIA や M-V という既存のロケット技術を継承することで短期間・低コストなロケット機体を開発を実現しました。

また、組立・点検などの運用を効率化することにより、運用コストの低減を実現し、コンパクトな打ち上げシステムを構築しました。

▶より多くの衛星が打上げできる！

複数衛星搭載構造を採用することで、100～200kgの小型衛星、60kg級の超小型衛星とキューブサットを同時に打ち上げ、各衛星の要求に応じて投入高度を変えることができます。

イプシロンロケットの将来計画

イプシロンロケットは H3 ロケットと開発から製造、運用までの一連のフェーズにおいて、機体や地上システム、製造設備等の様々な基盤技術を相互に活用する予定です。

これらの取り組みにより打ち上げコストを低減することで、小型衛星の打ち上げ市場における国際競争力の強化を目指します。



イプシロンロケット 組立てから 打ち上げまで



ロケットの1段モータは船で運ばれてきます



トレーラーに載せて内之浦港から内之浦宇宙空間観測所までの5キロの道のりを時速15キロで移動します



M組立室に運び込まれます



工場からバラバラに到着したロケットはM組立室の中で点検・組立てを行います